



橋本健一郎氏

三月前半は4Qの米GDP改定値は前期比二・二%増に下方修正したが予想の二%増は上回ったことや、独議会がギリシヤ支援の四ヶ月延長を可決したこと、二月の米雇用統計で非農業部門の雇用者数が前月から一九万五、〇〇人増え、市場予想(二四万人程度の増加)を大きく上回ったほか、失業率も前月から〇・二ポイント低い五・五%に低下するなどのプラス材料もあったが、二月の米ISM製造業景況指数は五一・九に低下、予想の五三・〇を下回り、一月の米建設支出は前月比一・一%減少、予想の〇・三%増を下回ったこと、二月の米ADP民間雇用者数は二一・二万人増加、予想の二一・九万人増を下回ったことなど米雇用統計への警戒感からLME銅相場はDOWN、三月十五日時点で五、五六〇ドル(セツル)と月初価格より三六ドルDOWNの前半締めとなつた。

後半は、三月の米鉱工業生産指数は前月比〇・一%上昇、予想は〇・二%上昇と悪化した事、原油が四二ドルまで下落した事、三月のZEW景気期待指数は五四・八、予想の五八・二を下回つたこと、二月の米住宅着工件数は前月比一七%減の八九・七万件、予想は一〇四万件だったことなどのマイナス材料はあったが、インフレン会長が記者会見で、物価上昇率の鈍さを指摘する発言が以前より多かつたとの見方から緩和的な金融政策が長く続くと見解が広がつたことなどを好感し上昇、四月三日現在、後半スタート価格から一六六ドルUPの五、八五五ドル。銅建値七七万円のスタートとなつた。

#### ◆前月の経済指標

◆月間のドル／円レート (TTS)  
一二一・一二一→一二一・〇三(円)

◆自動車販売台数

日本自動車工業会によると、自動車販売台数は前年比五・三%減の八一万七、三九〇台であつた。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比一三・一%減の四一万八、〇二五台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比三・一%減の六万七、五五二戸であつた。

# 自動車の販売減少で生産調整

橋本健一郎氏リポート①

**銅輸入は内需不透明感などで減少**

◆貿易関連指標

橋本健一郎氏

P改定値は前期比二・二%増に下方修正したが予想の二%増は上回ったことや、独議会がギリシヤ支援の四ヶ月延長を可決したこと、二月の米雇用統計で非農業部門の雇用者数が前月から一九万五、〇〇人増え、市場予想(二四万人程度の増加)を大きく上回ったほか、失業率も前月から〇・二ポイント低い五・五%に低下するなどのプラス材料もあったが、二月の米ISM製造業景況指数は五一・九に低下、予想の五三・〇を下回り、一月の米建設支出は前月比一・一%減少、予想の〇・三%増を下回つたこと、二月の米ADP民間雇用者数は二一・二万人増加、予想の二一・九万人増を下回つたことなど米雇用統計への警戒感からLME銅相場はDOWN、三月十五日時点で五、五六〇ドル(セツル)と月初価格より三六ドルDOWNの前半締めとなつた。

後半は、三月の米鉱工業生産指数は前月比〇・一%上昇、予想は〇・二%上昇と悪化した事、原油が四二ドルまで下落した事、三月のZEW景気期待指数は五四・八、予想の五八・二を下回つたこと、二月の米住宅着工件数は前月比一七%減の八九・七万件、予想は一〇四万件だったことなどのマイナス材料はあったが、インフレン会長が記者会見で、物価上昇率の鈍さを指摘する発言が以前より多かつたとの見方から緩和的な金融政策が長く続くと見解が広がつたことなどを好感し上昇、四月三日現在、後半スタート価格から一六六ドルUPの五、八五五ドル。銅建値七七万円のスタートとなつた。

◆概況

◆自動車生産

二月の車種別生産台数と前年同月比は次のとおり。

乗用車六九万二、〇七一台で四万九、三〇五台(六・七%)の減少となり、八カ月連続のマイナス。

このうち普通車は三九万九、〇六三台で八、五六五台(一・一%)の減少、小型四輪車は一三万三、三九三台で三万台、四五一台・一八・六%の減少、軽四輪車は一五万九、六一五台で一万〇、二八八台・六・一%の減少。

トランク一二万三、八〇七台で三、七五五台・三・四%の増加となり、四カ月ぶりにプラス。

このうち普通車は五万〇、七三〇台で一、四九二台で一、〇八四台・七・五%の増加。軽四輪車は三万三、一五五台で八一九台・二・四%の減少。

バス一万一、五一二台で五一二台・四・三%の減少となり、二カ月連続のマイナス。

二月の国内需要は四八万二、一〇三台で一六・一%の増加、小型は一万〇、五三〇台で七一五台・六・四%の減少。

二月の国内需要は四八万二、一〇三台で一六・一%の増加、小型は一万〇、五三〇台で七一五台・六・四%の減少。

前年同月比一四・七%の減少であった。うち乗用車四一万三、一九二台で前年同月比一五・八%の減少、トラック六万七、九二〇台で同七・七%の減少、バス九九一台で同七・九%の減少。

輸出は前年同月比〇・二%の減少。(実績)

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が二〇・九%増の四万二、九三六t、スクランプが四五%減の九、五三七t。

輸入は電気銅が前年比九四・七%減の二・七二六t、スクランプ一七・九%減の六、〇二七t。

◆前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比〇・四%増の六万五、八五〇t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)銅電線出荷量は、前年比一・五%減の五万九、四〇tであった。

(四面より続く)

【自動車販売】

三月の国内自動車販売台数（軽は除く）は四一萬八、〇二五トンで前年比一三・一%減。七力月連続マイナス。うち乗用車一四・六%減、貨物三・九%減、バス三・四%増。

【住宅着工数】

平成二十七年一月の住宅着工戸数は六万七、五五二戸で、前年同月比では三・一%減となつた。また、季節調整済年率換算値では九〇・五万户（前年比四・七%増）となつた。

住宅着工の動向については、リーマンショックを受けた大幅な下落（平成二十一年度）以降、緩やかな持ち直しの傾向が続く中、昨年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動もあつて、このところ前年同月比で大幅な減少が続いているが、足下では減少幅が大幅に縮小した。

（持家）前年同月比では二三力月連続の減少（前年同月比九・一%減、季節調整値の前月比では四・六%増）。

（貸家）前年同月比では八力月連続の減少（前年同月比七・五%減、季節調整値の前月比では五・八%増）。

（分譲住宅）前年同月比では四力月ぶりの増加（前年同月比一一・二%増、季節調整値の前月比では〇・七%増）。

（分譲マンション）前年同月比では三力月ぶりの増加（前年同月比二三・三%増）。

（分譲一戸建住宅）前年同月比では一〇力月連続の減少（前年同月比〇・二%減）。

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比一・八%減の六万五、八五〇t（〇・四%増）。内需五万四、四三二tで〇・二%減と四力月連続マイナス。輸出は一万一、四一八tで三・二%増と七力月連続プラス。銅条二万〇、八八〇tで五・七%増と二〇力月連続プラス。黄銅棒一万五、〇四六tで七・七%減と七力月連続マイナス。堅調な銅条、銅棒に対し、銅管、黄銅棒が前年対比でマイナスが続いている。

【銅電線出荷量】

電線は前年比一・五%減の五万九、四〇〇t。うち国内二・四%減、輸出が四・七%減。通信八・二%増、電力五・九%増、電気機械二・九%減、自動車〇・一%増、建設電販二・五%減、その他内需二三・九%減。

【輸入】電電気銅が九四・七%減の二、七二六t。スクラップは一七・九%減の六、〇二七t。

【見通し】

自動車は生産が前月に続き減少の五・三%減。また三月の国内販売台数も前年比一三・一%減と減少幅も拡大。販売の減少が七力月連続、続いている、また輸出も微減ではあるが減つてきており、また輸出も微減ではあるが減つてきておと悪化。

今月も生産台数、販売台数共に減少してきており、また輸出も微減ではあるが減つてきてお

り、今後の動向に注目。全体としては四月も更に悪化するのではないか。

・新設住宅着工数は前年比三・一%減。季節調整済年率換算値八六・四万戸（前月比四・三%増）と一力月連続減少。ただ季節調整済換算では六力月ぶりプラスに転じた。

・伸銅品は前月はマイナスだったがプラスの前年比〇・四%。銅条は輸出を中心堅調さが見られたが、黄銅棒、銅管は住宅関連の低調さを受け調整が続いた。

今月も伸銅品生産は板条の増加、輸出に支えられている面もあり、内需に期待したいが四月も内需が急回復するとは考えにくい。

・輸出は中国景気後退による需要減への警戒感や一八・一一〇円レンジの大幅な円安トレンドから地金は増加、スクラップは自動車、住宅生産の減少による需要減や先行き不透明感から需要は増えてないものの、内需玉も手一杯なことから小幅減少。

・輸入は内需の不透明感や大幅な円安に伴う割高感から減少したとの見解。

【スクラップ需給予想】

電気銅建値が七四〇円から七九〇円まで急騰した過程で塩漬け玉がある程度発生したが、伸銅品生産の低調に伴い発生薄のトレンドは変わらず今月は在庫薄状態。

メカニカルは慢性的な住宅販売の低調に加え、自動車生産、販売の目途も立たないことから購入意欲は薄いものの、新年度入りの受注手当需要があるとの予測から、低位安定との見解。

【価格・為替予想】

今月は、ギリシャ債務問題の進展、中国の景気対策に左右される。

ギリシャ政府は、ECBや独首相との会合

を幾度のなく繰り返しているものの、有効な債権政策は得られず、伸ばし伸びの状態が続くの

では。ただその過程での提案や受け入れでの一喜

一憂はあるとの見解。

中国景気対策に関して、中国・李首相が先月十

五日に時点で金融緩和などの対策を行う準備があ

るとの発言をしていることから、四月中に金融緩

和などの対策が行われる可能性は高いとの見解。

それらを踏まえた四月の銅価格は、ギリシャ債務問題でECBとの一定の歩み寄りが見られ、

さらに中国の金融緩和などの対策がだされ場合、三月後半高値付近の六、二〇〇ドルを予測。い

ずれかの場合は五、九〇〇ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかつた場合

もう一段安値の五、七〇〇ドル。

為替は、米FRBの利上げについて六月から

九月にいずれ込むとの認識はコンセンサスを得たら

が、好調な米経済指標やギリシャ債務問題での

ユーロ安から四月中もドル高傾向がつづくのではないか？

今後、米経済指標の悪化が進んだ場合、上値は

一九円台。下値は特に新規材料難の場合一二

円台と予測（TTM）。

銅建値に関しては七三〇～八〇〇円程度と予測している。